令和６年度
宮城県公立学校教員採用候補者選考
仙台市立学校教員採用選考
第１次選考試験問題

筆　記　試　験　1

養護教諭

令和５年７月22日(土)

10：00 ～ 11：00

（60分）

《注　意　事　項》

1　試験開始の合図があるまで、この冊子を開かないでください。
2　問題用紙は、全部で16ページあり、解答番号は 1 から 26 まであります。
3　試験中に問題の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、黙って手をあげて監督者に知らせてください。
4　解答は、解答用紙の所定の欄にそれぞれマークしてください。
5　解答用紙への記入は、裏表紙にある「解答用紙記入上の注意事項」をよく読んで、正しくマークしてください。
6　試験開始の合図後、解答を始める前に、解答用紙に、受験番号、氏名及び受験教科名を忘れずに記入してください。
7　試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

第１問　次の文ａ～ｄについて正しいものの組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの [1] の番号のところにマークしなさい。

ａ　保健調査は、健康診断を的確かつ円滑に実施するため、小学校、中学校、高等学校及び高等専門学校においては全学年において、幼稚園、大学においては必要と認めるときに行うものとする。

ｂ　保健調査票は、健康診断票と同様に、学校保健安全法施行規則第８条において作成、送付、保存しなければならない表簿として定められている。

ｃ　小・中学校の児童生徒に対する定期健康診断における結核検診においては、専用の問診票を使用する代わりに保健調査票に統合してもよいとされている。

ｄ　就学時健康診断においては、市町村教育委員会が学齢簿を作成し、翌学年の初めから30日前までに、就学時健康診断票を就学時の健康診断を受けた者の入学する学校の校長に送付しなければならない。

１　ａ・ｂ　　２　ａ・ｃ　　３　ａ・ｄ　　４　ｂ・ｃ　　５　ｂ・ｄ　　６　ｃ・ｄ

第２問　次の表は、「学校環境衛生基準」（平成30年４月１日施行）の水泳プールに係る学校環境衛生基準を示したものである。空欄 a ～ e にあてはまる語句をあとの語群１～０のうちから１つずつ選び、 a はマークシートの 2 に、 b は 3 に、 c は 4 に、 d は 5 に、 e は 6 の番号のところにそれぞれマークしなさい。なお、１つの語句は１度しか使えないものとする。

表

	検査項目	基　準
水質	(1) 遊離残留塩素	a mg/L以上であること。また、 b mg/L以下であることが望ましい。
	(2) ｐＨ値	c 以上 d 以下であること。
	(3) 大腸菌	e
	(4) 一般細菌	１mL中200コロニー以下であること。
	(5) 有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	12mg/L以下であること。
	(6) 濁度	２度以下であること。
	(7) 総トリハロメタン	0.2mg/L以下であることが望ましい。
	(8) 循環ろ過装置の処理水	循環ろ過装置の出口における濁度は、0.5度以下であること。また、0.1度以下であることが望ましい。
（以下略）		（以下略）

［語群］

１　0.2　　２　0.4　　３　1.0　　４　3.8　　５　5.8　　６　6.8　　７　8.6

８　検出されないこと。　　９　１mL中50コロニー以下であること。

０　１mL中100コロニー以下であること。

第３問　次の表は学校保健安全法施行規則第18条及び第19条に定められている感染症の種類と出席停止の期間の基準についてまとめたものである。空欄 a ～ e にあてはまる語句をあとの語群１～８のうちから１つずつ選び、 a はマークシートの 7 に、 b は 8 に、 c は 9 に、 d は 10 に、 e は 11 の番号のところにそれぞれマークしなさい。なお、１つの語句は１度しか使えないものとする。

表

	感染症の種類	出席停止の期間の基準
第１種	（略）	治癒するまで。
第２種	インフルエンザ※1	発症した後５日を経過し、かつ、解熱した後２日（幼児にあっては、３日）を経過するまで。
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は５日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
	麻しん	a を経過するまで。
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後５日を経過し、かつ、 b まで。
	風しん	c まで。
	水痘	d まで。
	咽頭結膜熱	e を経過するまで。
	新型コロナウイルス感染症※2	発症した後５日を経過し、かつ、症状が軽快した後１日を経過するまで。
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。
	ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない。	
第３種	（略）	病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。

※１　特定鳥インフルエンザを除く。
※２　病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和２年１月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。

［語群］

１　主要症状が消退した後２日　　２　発症した後５日　　３　解熱した後５日
４　すべての発しんが痂皮化する　　５　主要症状が軽快した後３日
６　解熱した後３日　　７　発しんが消失する　　８　全身状態が良好になる

第４問　「学校検尿のすべて」（令和２年度改訂　日本学校保健会）に記載されている、１型糖尿病の特徴について述べた次の文ａ～ｄの中で、誤っているものの組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの 12 の番号のところにマークしなさい。

ａ　突然、口渇、多飲、多尿、体重減少などの症状があらわれ、糖尿病であることがわかる場合が多い病型である。インスリンを産生している腎臓のβ細胞が自己免疫現象などによって破壊されることが原因である。

ｂ　糖尿病性ケトアシドーシスは、乳幼児で多くみられる。血糖コントロールは、個々の症例によってその目標値は個別化されるが、基準はHbA1c値で7.0％未満を目指す。

ｃ　家族内に糖尿病者は少なく、インスリンの注射が治療の中心である。インスリン治療をしている時に激しい運動をすると、血中のブドウ糖の利用が促進され、血糖値が下がり、震えや頻脈などといった低血糖の症状があらわれることがある。

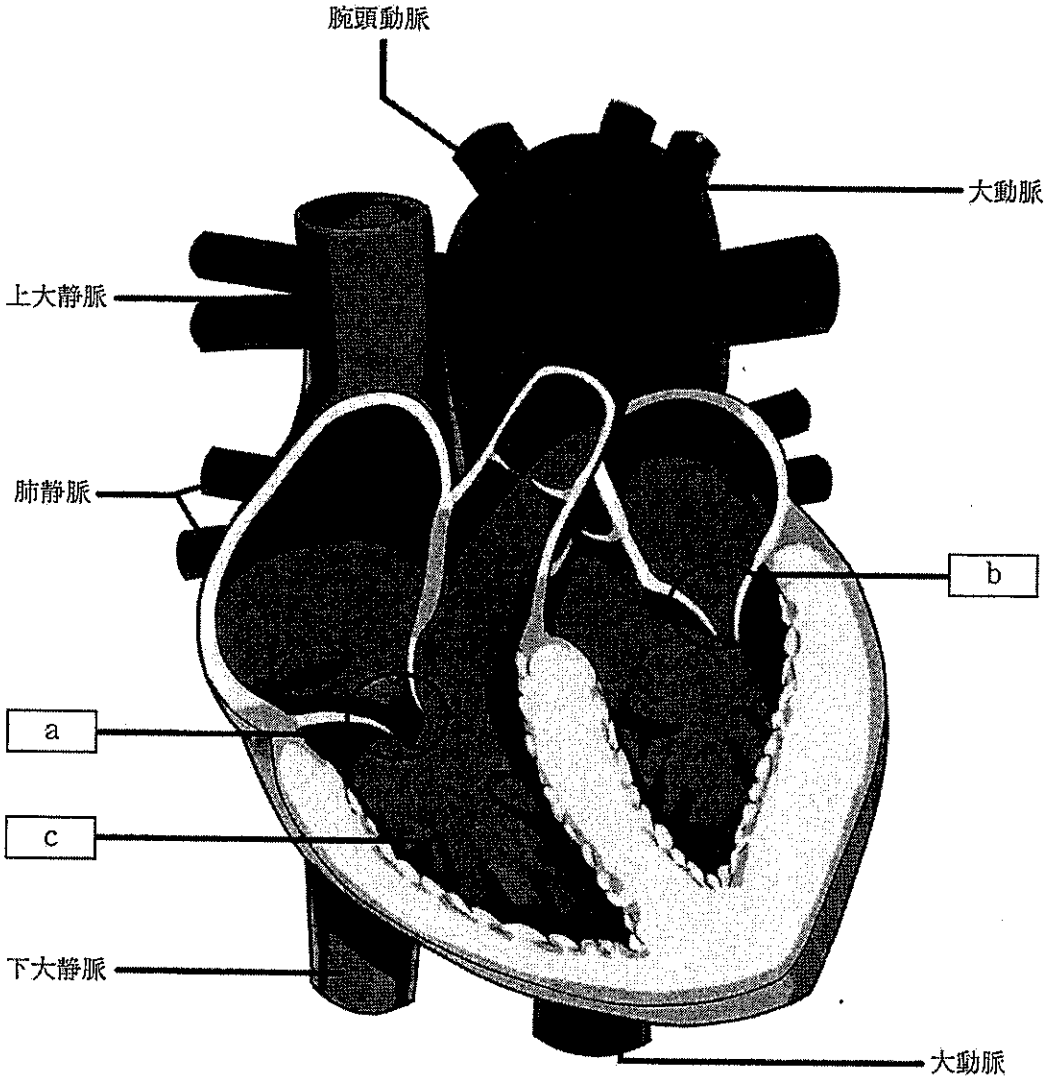
ｄ　発症年齢と頻度は、10～15歳以上に多く、乳幼児では稀である。

１　ａ・ｂ　　２　ａ・ｃ　　３　ａ・ｄ　　４　ｂ・ｃ　　５　ｂ・ｄ　　６　ｃ・ｄ

第５問　次の問１、問２に答えなさい。

問１　次の図は、心臓の構造を表したものである。

空欄 [a] ～ [c] にあてはまる語句を、あとの語群１～９のうちから１つずつ選び、[a] はマークシートの [13] に、[b] は [14] に、[c] は [15] の番号のところにそれぞれマークしなさい。なお、１つの語句は１度しか使えないものとする。



図

[語群]

1　左心室	2　右心室	3　右心房	4　左心房	5　二尖弁
6　三尖弁	7　僧帽弁	8　肺動脈弁	9　大動脈弁	

問２　「学校心臓検診の実際」（令和２年度改訂　日本学校保健会）に記載されている心臓の疾病及び異常の有無における検査について述べた次の文ａ～ｄの中で、**誤っているもの**の組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの 16 の番号のところにマークしなさい。

ａ　日本体育・学校健康センターや独立行政法人日本スポーツ振興センターの報告によると、学校管理下の心臓突然死は、1987年には年間118名と報告されているが、その後年々増加傾向にある。

ｂ　川崎病は、主として４歳以下の乳幼児に起こる原因不明の疾患で、心臓に後遺症を残すことがあり問題となるが、急性期に冠動脈障害がなかったものについては運動制限の必要はない。

ｃ　心電図検査は小学校、中学校、高等学校、大学の各１学年全員に義務付けられている。

ｄ　完全房室ブロックでは、脈が遅すぎたり心室頻拍が出現したりして失神を起こすことがある。この失神発作をアダムス・ストークス発作といい、この場合はペースメーカー植込みが必要になる。

１　ａ・ｂ　　２　ａ・ｃ　　３　ａ・ｄ　　４　ｂ・ｃ　　５　ｂ・ｄ　　６　ｃ・ｄ

第６問　次の問１、問２に答えなさい。

問１　心疾患・腎疾患を有する児童生徒の学校生活における適切な健康管理を行う上で、学校生活管理指導表の活用は重要である。「児童生徒等の健康診断マニュアル」（平成27年度改訂　日本学校保健会）に記載されている学校生活管理指導表について述べた次の文ａ～ｄの中で、正しいものの組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの 17 の番号のところにマークしなさい。

ａ　心疾患・腎疾患を有する児童生徒を対象とした学校生活管理指導表は、学校の教科体育を軽い運動、中等度の運動、強い運動の３段階に分け、また、疾患の重症度によりＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｅの５段階に分け、適切な生活指導を行うことができるように表示したものである。

ｂ　運動強度の定義として、「中等度の運動」とは、同年齢の平均的児童生徒にとって、息がはずみ、息苦しい程度の運動である。

ｃ　心疾患・腎疾患を有する児童生徒の運動部（クラブ）活動への参加の可否は、運動種目によって決定する。

ｄ　学校生活管理指導表指導区分において、指導区分の「Ｂ」は、登校はできるが運動は不可である。

１　ａ・ｂ　　２　ａ・ｃ　　３　ａ・ｄ　　４　ｂ・ｃ　　５　ｂ・ｄ　　６　ｃ・ｄ

問２　「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（令和元年度改訂　日本学校保健会）に記載されている学校におけるアレルギー疾患への対応について述べた次の文ａ～ｄの中で、正しいものの組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの 18 の番号のところにマークしなさい。

ａ　学校生活管理指導表は、主治医・学校医もしくは保護者が記載し、学校に提出されるものであり、配慮や管理が必要な間は、毎年提出を求める。

ｂ　学校生活管理指導表には児童生徒等の健康に関わる重要な個人情報が記載されているので、学校での管理には十分注意する必要がある一方、緊急時に誰でも対応できるように教職員全員がその情報を共有しておくことも重要である。

ｃ　学校給食において除去食対応していたものを解除する場合は、血液検査の結果を記載した主治医が作成する「除去解除申請書」の提出を求め、保護者と学校の間で書類を作成して対応を協議する。

ｄ　学校は、校長を責任者として関係者で組織するアレルギー対応委員会を設置し、アレルギー疾患への対応に関する協議や情報共有を行うほか、実践的な訓練を定期的に行い、緊急時対応体制の整備を図る。

１　ａ・ｂ　　２　ａ・ｃ　　３　ａ・ｄ　　４　ｂ・ｃ　　５　ｂ・ｄ　　６　ｃ・ｄ

第7問　「児童生徒等の健康診断マニュアル」（平成27年度改訂　日本学校保健会）及び「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引」（令和３年度改訂　日本学校保健会）に示されている健康診断における栄養状態の評価と肥満の指導について述べた次の文ａ～ｄの中で、誤っているものの組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの 19 の番号のところにマークしなさい。

ａ　貧血の疑いと判定された児童生徒については、医療機関等で血液検査を受けることが望ましい。健康診断時に学校医に指摘されなくても、日常の健康観察で顔色が悪い、疲れやすい等の症状がある場合は、受診を勧める。

ｂ　健康診断時に体重成長曲線と肥満度曲線を作成することによって、神経性食欲不振症や虐待を早期に発見して適切な対応をすることが必要である。

ｃ　小児肥満は生活習慣が直接的な原因であり、生活習慣病を引き起こすものであるため、学校では早期から食事や運動などの生活習慣について指導・管理を徹底する。

ｄ　成長期にある児童生徒等においては、急激な身長の伸び（思春期成長促進現象）により個人差が大きいため、肥満及びやせの傾向を判定するには、一時点の身長や体重の測定値に基づいて判定・指導する必要がある。

１　ａ・ｂ　２　ａ・ｃ　３　ａ・ｄ　４　ｂ・ｃ　５　ｂ・ｄ　６　ｃ・ｄ

第８問　次の問１、問２に答えなさい。

問１　「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引」（令和３年度改訂　日本学校保健会）で示されている健康相談について述べた次の文ａ～ｄの中で、正しいものの組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの 20 の番号のところにマークしなさい。

ａ　学校保健安全法施行規則にある学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の職務執行の準則には、「法第８条の健康相談活動に従事すること」とある。学校医、学校歯科医及び学校薬剤師が主に医療的な観点、専門的な立場から行うものを健康相談活動、養護教諭その他の職員が行うものを健康相談と分けている。

ｂ　健康相談は、児童生徒や保護者等からの希望に応じて行い、個別の事情に配慮した一対一の相談に限定されるものである。

ｃ　健康相談は、学校保健計画に位置付けて実施するが、状況に応じて随時行われるものもある。健康相談を実施するに当たり、最も留意しなければならない点は、カウンセリングで解決できるものと医療的な対応が必要なものとがあることである。

ｄ　児童生徒の心身の健康課題が多様化し、すべて学校のみで解決することは困難な状況にある。そのため、医療機関をはじめとする地域の関係機関等との連携が必要となっている。このことは、学校保健安全法第10条に定められている。

１　ａ・ｂ　２　ａ・ｃ　３　ａ・ｄ　４　ｂ・ｃ　５　ｂ・ｄ　６　ｃ・ｄ

問２　次の文章は、「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引」（令和３年度改訂　日本学校保健会）に記載されている健康相談の事例である。この事例の対応として述べた文ａ～ｄについて、適切な内容の組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの 21 の番号のところにマークしなさい。

遅刻が目立つようになった要因の一つが起立性調節障害であった生徒：中学２年生 男子（一部抜粋）

(1) 健康相談対象者の把握方法：保健室利用

(2) 事例の概要

夏休み明けから遅刻がちとなり、頭痛、めまいを訴えて来室した。顔色が悪いため、下肢を挙上して休養すると回復した。「最近、疲れやすく、だるい」と話し、次第に欠席も増えていった。

(3) 課題の背景の把握

養護教諭が学級担任・教科担当教員と学校生活の様子について情報共有をした結果、授業中は無気力で寝ていること、忘れ物が多く宿題が提出できずに、放課後に居残りをして宿題をしていることが分かった。学級担任・教科担当教員は、夜遅くまでインターネットをしているため、怠惰であるととらえていた。

養護教諭は起立性調節障害の疑いがあると推測し、チェックシートを使用して問診した結果、小児科受診の必要があると判断した。

(4) 支援方針・経過

養護教諭が、本人にストレスが疾患の一因になることがあるので、思い当たることはないか尋ねると、「何回、確認しても忘れ物をしてしまう。部屋が散らかっていて教科書が見つからず、学校の準備に時間がかかる。先生に怒られてばかりでいやになる」と話した。

ａ　起立性調節障害は、思春期に好発する自律神経機能不全の１つである。発症の早期から重症度に応じた適切な治療と家庭生活や学校生活における環境調整を行い、適切な対応を行うことが不可欠である。

ｂ　養護教諭は本人から、忘れ物が多いことや宿題が提出できずに怒られることがストレスであると聞き取ったため、この生徒は発達障害であると、その場で本人に伝えた。

ｃ　学級担任は、学校生活における環境調整の一環として、本人からの承諾を得る前にクラスの生徒に対して本人の病名を知らせ、怠惰で遅刻や早退があるわけではないことを説明し、理解を求めた。

ｄ　校内委員会で、遅刻や欠席の増加は、怠惰ではなく身体的疾患が原因であること、周囲が理解することで心が安定し、身体症状の改善につながることを共通理解した。

１　ａ・ｂ　　２　ａ・ｃ　　３　ａ・ｄ　　４　ｂ・ｃ　　５　ｂ・ｄ　　６　ｃ・ｄ

第９問　次の問１、問２に答えなさい。

問１　小学校学習指導要領（平成29年７月）解説総則編第３章第１節２「生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開」の(3)に示された内容について、**誤っているもの**を次の１～４のうちから１つ選び、マークシートの［ 22 ］の番号のところにマークしなさい。

１　健康に関する指導については、児童が必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することができる資質・能力を育成することが大切である。

２　児童が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることにより、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性を育んでいくための基礎が培われるよう、栄養のバランスや規則正しい食生活、食品の安全性などの指導が一層重視されなければならない。

３　身の回りの生活の安全、交通安全、防災に関する指導や、情報技術の進展に伴う新たな事件・事故防止、国民保護等の非常時の対応等の新たな安全上の課題に関する指導を一層重視し、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結びつけるようにすることが重要である。

４　心身の健康の保持増進に関する指導においては、情報化社会の進展により、様々な健康情報や性・薬物等に関する情報の入手が容易になっていることなどから、児童は自ら得た情報をもとに、適切に行動する環境が整いつつあると考えられる。

問２　「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」（平成29年３月　文部科学省）で示されている養護教諭の役割について述べた次の文ａ～ｄの中で、適切なものの組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの 23 の番号のところにマークしなさい。

ａ　常時保健室に待機して傷病者の対応に専念する必要があることから、児童生徒の様子や日頃の状況等については、学級担任や教科担当教員による見回りや声がけを通じて把握する。

ｂ　児童生徒が抱える課題の背景の把握のため、保健室で得られる情報（健康観察、保健室利用状況、健康相談結果、当該児童生徒の生活時間や家庭での食事状況などの心身の健康に関する調査結果など）を整理する。

ｃ　支援に当たり、関係機関と連携した対応が必要な場合は、学校医やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと協力するなど、より児童生徒の実態に即した支援方針・支援方法が検討されるよう働きかける。

ｄ　支援に当たっては、継続的な対応が重要であるため、悪化が見られる場合であっても、校内支援委員会で決定していた支援方法や役割分担に沿って、児童生徒の支援を継続する。

１　ａ・ｂ　　２　ａ・ｃ　　３　ａ・ｄ　　４　ｂ・ｃ　　５　ｂ・ｄ　　６　ｃ・ｄ

第10問　次の問１、問２に答えなさい。

問１　「生徒指導提要」（令和４年12月　文部科学省）に示されている内容に関する次の文ａ～ｄについて、**誤っているもの**の組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの［24］の番号のところにマークしなさい。

ａ　多様な背景を持つ児童生徒への支援については、本人及び保護者の意向を踏まえつつ、必要に応じて市町村教育委員会等とも連携し、適切な学びの場及び学習方法を検討することが必要である。

ｂ　行動面への指導は、起きている行動だけに注目せず、どういう行動をとればよいかを具体的に教え、実行できたら褒めるなどの成就感や達成感を得させることが大切である。

ｃ　対人関係や社会性、行動面や情緒面、学習面において適応上の困難さにつながる特性を有している児童生徒については、医師による診断を受けてから、指導方法や対応方法を考えていくことが大切である。

ｄ　個別の教育支援計画は、学校と家庭においてのみ情報を共有するための支援ツールであり、保護者との相談活動において得られた知見を反映させることが大切である。

１　ａ・ｂ　２　ａ・ｃ　３　ａ・ｄ　４　ｂ・ｃ　５　ｂ・ｄ　６　ｃ・ｄ

問2　次の文章は、てんかん発作への対応について記述したものである。発作時の対応について述べた文a～dの中で、正しいものの組合せを、あとの1～6のうちから1つ選び、マークシートの 25 の番号のところにマークしなさい。

中学2年生のAさんは、思春期になり体の成長とともにてんかん発作の症状が変化してきている。常時服薬をしているものの、体の成長とともに内服薬によるコントロールが難しくなってきたため、前回の受診の際に坐薬が処方された。

緊急時は坐薬を使用するよう主治医からの指示があったため、保護者から保健室で坐薬を保管してほしいと申し出があった。

a　厚生労働省の「医師法第17条、歯科医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条の解釈について」に記載されている坐薬挿入は、医行為として考えられているため、現場に居合わせた担任が坐薬挿入を行うことはできない。

b　保護者からの申し出を受けて、「主治医からの指示書」を保護者と事前に書面で確認するとともに、発作時は保護者に連絡をした上で、養護教諭が手袋を装着し、坐薬を挿入することとした。

c　Aさんは、坐薬使用後に一定時間眠ったあと、呼びかけに反応するようになり、意識がしっかりして普段通りの状態に回復したため、医療機関の受診は必要ないと判断した。

d　てんかん発作時の対応は、児童生徒のプライバシー保護に十分な配慮をする必要がある。全ての行事において、他の児童生徒と全く同様に扱うことが大切であるが、水泳については十分な監視が必要である。

1　a・b　　2　a・c　　3　a・d　　4　b・c　　5　b・d　　6　c・d

第11問　応急処置に関する内容について述べた次の文ａ～ｄの中で、正しいものの組合せを、あとの１～６のうちから１つ選び、マークシートの 26 の番号のところにマークしなさい。

ａ　胸骨圧迫の際には、手のひらの付け根だけに力が加わるようにするのではなく、手のひら全体で肋骨に力を加え、１分間に60回の速いテンポで連続して絶え間なく圧迫する。

ｂ　気道からの異物除去としてはハイムリック法（腹部突き上げ法）と背部叩打法があり、ハイムリック法を実施した場合は、救急隊にその旨を伝えるか、すみやかに病院での診察を受けさせる。

ｃ　腹部を打撲したのち、顔面蒼白で冷や汗をかくなどのショック症状が見られた場合は、救急車を要請するとともに、半座位をとらせ、全身状態の観察を続ける。

ｄ　人が倒れた場合、意識の確認中にしゃくりあげるような途切れ途切れの呼吸が見られるような時は、正常な呼吸なしと判断し胸骨圧迫を開始する。

１　ａ・ｂ　２　ａ・ｃ　３　ａ・ｄ　４　ｂ・ｃ　５　ｂ・ｄ　６　ｃ・ｄ

令和6年度
宮城県公立学校教員採用候補者選考
仙台市立学校教員採用選考
第１次選考試験　正答・配点

校　種	養護教諭	教科・科目	

問題番号			解答番号	正答	配点
第1問			1	2	4
第2問		a	2	2	4
		b	3	3	4
		c	4	5	4
		d	5	7	4
		e	6	8	4
第3問		a	7	6	4
		b	8	8	4
		c	9	7	4
		d	10	4	4
		e	11	1	4
第4問			12	3	4
第5問	問1	a	13	6	3
		b	14	7	3
		c	15	2	3
	問2		16	2	4
第6問	問1		17	3	4
	問2		18	5	4
第7問			19	6	4
第8問	問1		20	6	4
	問2		21	3	4
第9問	問1		22	4	3
	問2		23	4	4
第10問	問1		24	6	4
	問2		25	5	4
第11問			26	5	4
				総点	100